



Cisco Unity Connection 14 サポート対象プラットフォーム リスト

[Cisco Unity Connection 14 サポート対象プラットフォーム リスト](#) 2

[Unity Connection のプラットフォーム オーバーレイ](#) 2

[仮想マシン上の Unity Connection の vCPU、vRAM、および vDisk の設定](#) 8

[その他のプラットフォーム情報](#) 9

[Cisco Unity Connection でサポートされる UCS-E プラットフォーム](#) 9

[Unity Connection SRSV のプラットフォーム オーバーレイ](#) 9

改訂：2021年9月28日、

Cisco Unity Connection 14 サポート対象プラットフォームリスト

このドキュメントでは、Cisco Unity Connection 14 でサポートされているプラットフォームに関する情報を提供しています。Unity Connection のインストールアプリケーションでは、このマニュアルに示す仕様またはモデルと完全に適合していない限り、サーバへのインストールはできません。

Unity Connection のプラットフォーム オーバーレイ

Unity Connection 14 は、インストール用の仮想マシンのみをサポートしています。表 1: 現在出荷中の Unity Connection サーバの仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様は、仮想マシンに Unity Connection 14 をインストールした場合の仮想化の仕様と、ユーザ制限およびポート制限の一覧です。



(注) Unity Connection は、プラットフォームに事前にインストールされません。Unity Connection は、仮想マシンにのみインストールできます。

現在出荷中の Unity Connection サーバの仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様

ここでは、仮想マシンにインストールされた Unity Connection の仕様および制限について説明します。

仮想環境のシステム要件については、『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 14*』の「[Requirements for Installing Unity Connection on a Virtual Machine](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/requirements/b_14cucsysreqs.html からご利用いただけます。

プラットフォーム/部品番号については、次のリンクを参照してください。

http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-unity-connection.html

表 1: 現在出荷中の **Unity Connection** サーバの仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様

	最大で 200 ユーザ 対象の仮想プラ ットフォーム オー バーレイ	最大で 1,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 5,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 10,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 20,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ
vCPU (仮想プロ セッサの数) ¹ コア 数とコアあたりの 速度 ²	1@ 最低 1.8 GHz	1@ 最低 2.13 GHz (2.13 GHz 予約済 み)、または 2@ それぞれに最 低 1.8 GHz (3.6 GHz 予約済み)	2@ それぞれに最 低 2.53 GHz (5.06 GHz 予約済 み)	4@ Xeon 5600 およ び 7500 プロセッサ の場合: それぞ れに最低 2.53 GHz (10.12 GHz 予約 済み)、または 4@ Xeon E7 プロ セッサの場合: そ れぞれに最低 2.4 GHz (9.6 GHz 予 約済み)	7@ Xeon 5600 およ び 7500 プロセッサ の場合: それぞ れに最低 2.53 GHz (17.71 GHz 予約 済み) 7@ Xeon E7 プロ セッサの場合: そ れぞれに最低 2.4 GHz (16.8 GHz 予 約済み)
vRAM (仮想RAM の容量)	4 GB 予約済み	4 GB 予約済み	6 GB 予約済み	6 GB 予約済み	8 GB 予約済み 10 GB 予約済み (セキュアな Jabber エンドポ イント用)
V Disk (仮想ディ スクのサイズ) ³	1 x 160 GB	1 x 160 GB、ファ イルシステムを 64KB ブロックで アライメント	1 x 200 GB、ファ イルシステムを 64 KB ブロックでア ライメント	最大 10,000 ユーザ が使用できるド ロップダウンリス トから必要な OVA の構成を選択: • 2 x 146 GB • 2 x 300 GB • 2 x 500 GB ファイルシステム を 64KB ブロック でアライメント	最大 20,000 ユーザ が使用できるド ロップダウンリス トから必要な OVA の構成を選択: • 2 x 300 GB • 2 x 500 GB ファイルシステム を 64KB ブロック でアライメント
Unity Connection で サポートされるテ ナントの総数	-	5	20	30	60

	最大で 200 ユーザ 対象の仮想プラット フォーム オー バーレイ	最大で 1,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 5,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 10,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 20,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ
仮想マシンごとに 使用可能な合計 ポート数：音声 + TTS + 音声認識	8 ⁴	24	100	150	250
クラスタ内の使用 可能な合計ポート 数 ⁴	16	48	200	300	500
各仮想マシン上の 同時ビデオコール の総数（クラスタ/ スタンドアロン展 開） ⁵	0	2	2	2	20
メールボックスを 持つ合計ユーザ数	200	1,000	5,000	10,000	20,000
Cisco Personal Communications Assistant のユーザ 数	200	1,000	5,000	10,000	20,000
アクティブクライ アントの合計数： Cisco Unified Personal Communicator + サードパーティ製 IMAP + Cisco Unity conferencing + Cisco Unified Mobile Advantage + RSS + Phone View ユーザ（すべて IMAP アイドルク ライアントと見な す）	0	1,000	5,000	10,000	20,000
LDAP 社内ディレ クトリユーザの合 計数	200	1,000	5,000	10,000	20,000

	最大で 200 ユーザ 対象の仮想プラッ トフォーム オー バーレイ	最大で 1,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 5,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 10,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ	最大で 20,000 ユー ザ対象の仮想プ ラットフォーム オーバーレイ
保管されるメッ セージの概数、 G-711 コーデッ ク、毎分	75,000	72,944	137,298	.ova ファイルにより 異なる。 • 2 x 146 GB の 場合：252,831 • 2 x 300 GB の 場合：514,287 • 2 x 500 GB の 場合：919,992	.ova ファイルにより 異なる。 • 2 x 300 GB の 場合：514,287 • 2 x 500 GB の 場合：919,992
HTTPS ネットワー ク内の Unity Connection の場所	0	3	10	10	25
サポートされる Unity Connection SRSV ブランチの 合計数	[0]	10	35	35	35
Microsoft Office 365 でサポートされて いる Unified Messaging (SIB) ユーザの最大数 ⁶	0	1 vCPU の場合：0 1 vCPU の場合： 1000 の場合 ⁷	3,500	7,500	15000
Microsoft Exchange でサポートされて いる Unified Messaging (SIB) ユーザの最大数	0	1 vCPU の場合：0 2 vCPU の場合： 1000 ⁷	5,000	10,000	20000
Google Workspace でサポートされて いる Unified Messaging (SIB) ユーザの最大数	0	1 vCPU の場合：0 2 vCPU の場合： 1000 ⁷	2000	4000	8000

¹ VMware vSphere ESXi 5.1 以前の場合は、1 つ以上のプロセッサ コアを VMware ESXi ハイパーバイザ/スケジューラで使用できる必要があります。

² 仕様ベースのプロセッサ要件については、

http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_in_a_Virtualized_Environment を参照してください。

- ³ Opus コーデックは、録音コーデックとして PCM リニアを使って回線コーデックとして使用した場合、ディスクのサイズが2倍になります。
- ⁴ UCS E ブレードの場合、Cisco Unity Connection Administration で8つを超えるポートを作成できますが、パフォーマンスの問題を防ぐためにポートの作成は最大8つにしておくことを推奨します。
- ⁵ Cisco Media Sense は廃止され、サポートは終了しました。そのため、Unity Connection ではユーザにビデオメッセージング機能を提供しなくなりました。Cisco Media Sense EOL の詳細については、次のリンクを参照してください。<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/customer-collaboration/mediasense/eos-eol-notice-c51-738857.html>
- ⁶ Unified Messaging の設定については、『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection Release 14*』の「Configuring Unified Messaging」の章にある「Task List for Configuring Unified Messaging with Office 365」の項を参照してください。このドキュメントは、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/unified_messaging/guide/b_14cucumgx.html からご利用いただけます。
- ⁷ 1000 ユーザのオーバーレイに対する CPU (1vCPU ~ 2vCPU) の数を変更するには、該当する OVA の ReadMe の「Modifying the CPU」の項を参照してください。このドキュメントは次のリンクからご利用いただけます。<https://software.cisco.com/download/details.html?mdfid=283062758&flowid=77763&softwareid=282074348&release=OVA-120&rcid=AVAILABLE&relifecycle=&ctype=latest>

プラットフォーム オーバーレイ仕様に関連する追加情報

Unity Connection クラスタ

Unity Connection クラスタ機能では、クラスタに設定された2台の Unity Connection サーバによって、高可用性を持つ音声メッセージングが提供されます。アクティブ-アクティブ型の高可用性とも呼ばれるこのコンフィギュレーションでは、1つのノードが2台のサーバで構成され、ポート数はサーバモデルによって異なります。ノードポートの合計数は追加的なものです(単一のノードは最大500ポートまでサポート可能ですが、サポートされる合計ユーザ数はプライマリサーバにのみ適用可能です)。クラスタのプライマリサーバおよびセカンダリサーバは、CPUとメモリの総量を一致させないと設定がサポートされません。

クラスタで使用している2つのサーバ間のハードディスク領域が一致しない場合、小さい方のディスク領域がクラスタの各サーバのストレージ容量を決定します。『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 14*』の「Requirements for a Unity Connection Cluster」の項も参照してください。このドキュメントは、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/requirements/b_14cucsysreqs.html からご利用いただけます。

IMAP アイドルクライアント

アクティブクライアントの合計数の計算では、IMAP アイドルをサポートした IMAP クライアントの使用が前提となっています。Cisco Unified Personal Communicator 7.0 およびそれ以前、Cisco Unified Mobility Advantage、および Cisco Unified Mobile Communicator は、IMAP アイドルをサポートしていません。その結果、Unity Connection ボイスメッセージにアクセスするこうしたクライアント (IMAP アイドルをサポートしないクライアント) のアクティブインスタンスごとに、4つのアクティブクライアントとカウントされます。

プラットフォームのスケールリング

以下は、Unity Connection でサポートされているクライアントのリストです。

1. Cisco Jabber
2. Cisco Webex



(注) 他のクライアントも Unity Connection でサポートされますが、資格番号の下は Jabber と Webex に固有の値です。

この表には、Unity Connection が特定の OVA に対してシングル インボックス ユーザをサポートする、サポート対象クライアントのエンドポイント数に関する情報が記載されています。

表 2: シングル インボックス ユーザに対応するサポート対象クライアントの非セキュア エンドポイント

仮想プラットフォーム オーバーレイ	vCPU (仮想プロセッサの数) コア数およびコアあたりの速度	シングルインボックスユーザ	スタンドアロンサーバ上のエンドポイント	CUC クラスタごとのエンドポイントの総数 (負荷分散) ⁶	CUC HA ペア当たりの HA エンドポイント ⁷
20,000 ユーザ	7 vCPU	20,000	5,000	10,000	5,000
		15,000	7,500	15,000	7,500
		10,000	8,000	16,000	8,000
		5,000	8,500	17,000	8,500
		0	10,000	20,000	10,000
10,000 ユーザ	4 vCPU	10,000	2,000	4,000	2,000
		0	4,000	8,000	4,000
5,000 ユーザ	2 vCPU	5,000	1,000	2,000	1,000
		0	2,000	4,000	2,000
1,000 ユーザ	2 vCPU	1,000	200	400	200
		0	500	1000	500
	1vCPU	0	100	200	100

この表には、Unity Connection が特定の OVA に対して Office 365 ユーザをサポートする、サポート対象クライアントのエンドポイント数に関する情報が記載されています。

表 3: Office 365 ユーザに対応するサポート対象クライアントの非セキュアなエンドポイント

仮想プラットフォーム オーバーレイ	vCPU (仮想プロセッサの数) コア数およびコアあたりの速度	Office 365 ユーザ	スタンドアロンサーバ上のエンドポイント	CUC クラスタごとのエンドポイントの総数 (負荷分散) ⁶	CUC HA ペア当たりの HA エンドポイント
20,000 ユーザ	7vCPU	8,000	12,000	16,000	12,000



(注) Office 365 ユーザ向けのサポート対象クライアントの非セキュアなエンドポイントには、まだローエンドの OVA に適合していません

この表には、Unity Connection がシングル インボックス ユーザと共にサポートする、サポート対象クライアントのセキュアなエンドポイント数に関する情報が記載されています。

表 4: シングル インボックス ユーザに対応するサポート対象クライアントのセキュア エンドポイント

仮想プラットフォーム オーバーレイ	vCPU (仮想プロセッサの数) コア数およびコアあたりの速度	シングルインボックス ユーザ	スタンドアロンサーバ上のセキュア エンドポイント	CUC クラスタごとのエンドポイントの総数 (負荷分散) ⁸	HA セキュア エンドポイント CUC HA ペアあたり ⁹
20,000 ユーザ	7 vCPU	20,000	2,500	5,000	2,500
		15,000	5,000	10,000	5,000

⁸ 負荷分散では、Jabber クライアントはパブリッシャ サーバまたはサブスライバ サーバ上で静的に設定されます。サーバのいずれかが機能を停止すると、そのサーバ上に設定されている Jabber クライアントのサービスはダウンします。

⁹ HA ペアでは、Jabber クライアントは、パブリッシャ サーバ上で設定されます。パブリッシャ サーバが機能を停止した場合、サブスライバ サーバが設定された Jabber クライアントにサービスを提供します。



- (注)
- 要件に適合するパフォーマンスの数値は、ユーザがボイス メッセージング操作に異なるクライアントを使用している間はテレフォニーの使用量が減少するという前提に基づいています。
 - シングル インボックス ユーザ向けのサポート対象クライアントの非セキュアなエンドポイントには、まだローエンドの OVA に適合していません。

仮想マシン上の Unity Connection の vCPU、vRAM、および vDisk の設定

仮想マシン上の Unity Connection の展開を容易にするために、シスコでは、表 1: 現在出荷中の Unity Connection サーバの仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様 に示す仮想プラットフォーム オーバーレイ用の OVA テンプレートを用意しています。



注意 仮想 CPU の数 (1vCPU ~ 2vCPU のみ) と仮想 RAM の量 (8 GB ~ 10 GB のみ) の変更は、サポートされている OVA の構成に基づいて許可されます。ただし、仮想ディスクの数またはサイズの変更はサポートされていません。

また、OVA テンプレートでは仮想マシンの仮想ディスク上のファイル システムが、64-KB ブロックに調整されるため、1 秒間あたりのストレージ入出力操作数 (IOPS) が向上します。

最新の OVA ファイルのダウンロード方法については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html で、該当する『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』の「*Installation and Upgrade Information*」の項を参照してください。

新しい Unity Connection 仮想サーバのインストール中に OVA ファイルを展開する方法については、『*Install, Upgrade, and Maintenance Guide for Cisco Unity Connection Release 14*』の「*Installing Cisco Unity Connection*」の章を参照してください。このガイドは、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/install_upgrade/guide/b_14cuciumg.html からご利用いただけます。

物理サーバから仮想サーバへの移行中に OVA ファイルを展開する方法については、『*Install, Upgrade, and Maintenance Guide for Cisco Unity Connection Release 14*』の「*Maintaining Cisco Unity Connection Server*」の章にある「*Migrating a Physical Server to Virtual Machine*」の項を参照してください。このガイドは、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/install_upgrade/guide/b_14cuciumg.html からご利用いただけます。

Unity Connection を使用して他の Unified Communications アプリケーションを同じ物理サーバに展開する方法については、http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-unity-connection.html から「Unified Communications 仮想化 wiki」を参照してください。

その他のプラットフォーム情報

Unity Connection 14 へのアップグレード時の Unity Connection サーバの交換

MCS サーバは、Unity Connection 14 での使用がサポートされていません。これらのサーバ上で Unity Connection 14 をインストールまたはアップグレードしようとすると失敗します。Unity Connection 14 へのアップグレード時に物理サーバを仮想マシンに移行する方法の詳細については、『*Install, Upgrade, and Maintenance Guide for Cisco Unity Connection, Release 14*』の「*Maintaining Cisco Unity Connection Server*」の章を参照してください。このガイドは、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/14/install_upgrade/guide/b_14cuciumg.html からご利用いただけます。

Cisco Unity Connection でサポートされる UCS-E プラットフォーム

サポートされる UCS ブレードサーバの詳細については、http://docwiki.cisco.com/wiki/Cisco_Unity_Connection_on_UCSE を参照してください。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/prod/collateral/modules/ps10598/data_sheet_c78-553913.html にあるデータシートで確認できます。

Unity Connection SRSV のプラットフォーム オーバーレイ

プラットフォームごとのハードウェア仕様とサポート制限については、『[表 5 : Unity Connection SRSV の仕様](#)』を参照してください。

[表 6 : Unity Connection SRSV でサポートされている仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様](#)の表に、仮想マシンに Unity Connection SRSV をインストールする場合の仮想化仕様、ユーザ制限、およびポート制限を示しています。

Unity Connection SRSV でサポートされるハードウェア プラットフォームと Cisco IOS ソフトウェア リリースの仕様

ここでは、サポート対象のハードウェアプラットフォームと、ハードウェアプラットフォーム Unity Connection SRSV をサポートするために必要な最低限の Cisco IOS ソフトウェア リリースを示します。

表 5: Unity Connection SRSV の仕様

シスコ プラットフォーム	SM-SRE-900-K9 上の Unity Connection SRSV	SM-SRE-910-K9 上の Unity Connection SRSV	UCS E140D、E140DP、E160D、および E160 DP
Cisco 2911 Cisco 2921 Cisco 2951	15.2(4)M4	15.2(4)M4	15.2(4)T
Cisco 3925 Cisco 3945	15.4(1)T	15.4(1)T	15.2(4)T
Cisco 3925E Cisco 3945E	15.1(3)T	15.1(3)T	15.2(4)T
Cisco 4300	-	-	3.12S
Cisco 4400	-	-	3.13S 以降



(注) 使用する Cisco Unified Communications Manager Express または Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST) のバージョンによっては、別の Cisco IOS ソフトウェア リリースが必要な場合があります。詳細については、<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/index.html> にある Cisco Unified Communications Manager Express のマニュアルを参照してください。

Unity Connection SRSV でサポートされる仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様

ここでは、Cisco Unity Connection SRSV でサポートされる仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様を示します。

表 6: Unity Connection SRSV でサポートされている仮想プラットフォーム オーバーレイの仕様

	仮想プラットフォーム オーバーレイ
vCPU (仮想プロセッサの数) コア数およびコアあたりの速度	1@ 最低 1.8 GHz
vRAM (仮想 RAM の容量)	4 GB
vDisk (仮想ハードディスクのサイズ)	1 x 160 GB

	仮想プラットフォーム オーバーレイ
使用可能な音声ポートの合計数	12
メールボックスを持つ合計ユーザ数	500
保管されるメッセージの概数、G-711 コーデック、毎分	72,944
パブリック同報リストの数	500
コールハンドラの数	500
サポートされる言語の数	2

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>